

牛久：学校周辺に見る自然

第15号 宮内家

2011年6月7日発行

< スズムシが孵化しました >

6/6、わが家のスズムシが孵化して、幼虫たちが土の中から出てきました。もとは10年ほど前？に、牛久自然観察の森の「鳴く虫」のイベントでいただいたものですが、それは何と、私の実家裏の原っぱのものらしいことを数年後の展示会の時、「鳴く虫の会？」の方から伺いました。びっくりでした。

「翅のないスズムシ（幼虫）はゴキブリのよう。」とか、年々増えて「100匹以上入ったスズムシのかごが5つも6つもあっては、夜のセミのようで風情がない。」などと、家族のひんしゆくをかいながらも、ここまで続けてきました。昨年、他の虫にやられて大幅に数を減らしたので、今年は（たぶん・・・）、癒しの鳴き声を聞かせてくれることでしょう。



孵化して土の中から出てきた幼虫



左のより少し早く孵化した幼虫



まるでゴキブリの子ども？のような幼虫

スズムシは他のバッタやトンボなどと同様、不完全変態の昆虫ですね。孵化したての幼虫はまっ白ですが、すでに「ミニスズムシ」といえる姿をしています。参考までに2005年に撮った成虫の写事も載せておきます。どちらがオスか分かるかな？

そう、翅をひろげて鳴くのがオス。産卵管をもっているのがメスですね。【理科支援員 宮内】



産卵管を持ったメス（左）と翅をひろげて鳴くオス（右） 2005/7/23